

令和 5 年度 県立土浦第一高等学校自己評価表

目指す学校像	項 目	詳 細		
	生徒	・自分のことを理解し、人格形成を図り、自主的に多方面の知識と体験に触れ、物事について構造的に考え表現できる総合的な成長を目指す。 ・自己肯定感を持って主体的に行動し、思いやりを持って協働し、多様性を認め国際的視野を持てるような成長を目指す。		
	教員	・自ら仕事の効率化を図り、余裕を持ち職場や仕事の内容における改善を行うことで、WLB の向上を目指す。 ・常にリスキリングを行うことで、自身の成長から自己肯定感を強めて、その知識の生徒への還元も目指す。		
	学校	・日本一で、国内教育のロールモデルとなるような学校を目指す。 ・整理整頓ができて、生徒が明るく学べる場所、楽しく、安心して、やるべきことに集中できる場所を目指す。		
	連携	・保護者、同窓生、地域、国内外の教育機関などとの連携を強化し、より良いより強い教育基盤の構築を目指す。		
三つの方針		具体的目標		
三つの方針 (スクールポリシー)	入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	・志及び好奇心があって、何事にも興味関心を持ち、自ら考え、行動できる生徒。 ・自己管理、時間の管理、健康管理について常に意識する生徒。 ・自己の適性について考えることができ、その能力を存分に生かしたいと考える生徒。		
	教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	・創意工夫を生かした質の高い授業及び考查を実施し、主体的な学習態度を育成する。 ・部活動や学校行事を推進し、自主、協働、厚意の精神を育成する。 ・主体的に行動しながらも、協働の価値を理解し、多様な意見を受け入れ、協働する精神を育成する。 ・自己管理、時間の管理、健康・食事・睡眠の管理について定期的に啓発し、常に高い意識を持って生活できるように支援する。 ・キャリア教育、探究教育、多言語教育、グローバル教育などを含めた総合的教育のさらなる深化を図る。		
	育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	・自らを分析・理解し、妥協のない進路が選択できること。 ・人格形成を通じて、自己肯定感を持ち、あらゆる場面でスマートに対応できること。 ・本校を卒業して広い世界に出た時に自分に自信を持てるようにすること。 ・土ーネットワークを最大限に活用し、様々なことに挑戦できること。		
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標	達成状況
本校伝統の教科指導や学年体制、学校行事・部活動の運営等により、新型コロナウイルス感染症対策の最中であっても学校の特色を示す		①高い志（＝信念・厚意）の育成	① 高い「志」を持ち、常に前向きに努力し続けることにより、自分の進路を自ら切り拓いていく態度を育成する。 ② 生徒の自己理解を促し、高い目標設定と絶え間ない努力ができるよう、個別面談の充実を図る。	

別紙様式2（高）

ことができた。 今年度は、昨年度十分できなかった行事等を感染症対策に注意しながら実施し、本校の良さ・伝統・校風を次の世代に引き継いでいきたい。 また、ICT機器の活用を推進し、情報伝達ツールとしての活用の他、生徒の学習理解のサポートとなる体制作りを強化したい。 OBOGのネットワークを活用した取り組みは、本校の大きな特色であり、これまでも大きな成果を上げている。この取り組みは、生徒が進路を考える上で貴重な行事であり、卒業生の献身的な協力で成り立っている。高校生の今だからこそ、さまざまな刺激を与え、同級生と切磋琢磨しながら総合的な力を高めるきっかけとしたい。 生徒の心身のケアの体制を整えること、先生方の働き方に十分配慮することは、本校がこれからも輝き続けるために必要不可欠なことである。 附属中学校とさまざまな分野で連携し、お互いの良さを学校や地域の活力づくりに大いに生かしたい。		③将来において、各界でのリーダーを目指すべく、個人の可能性を伸ばせるように支援する。 ④学びのプロセスを記述するキャリアパスポートの活用、キャリア教育、進路支援などを通じて生徒が自ら進路を拓けること。	
	②自己理解による主体的学習態度の育成	⑤授業に対する意欲と理解を高め、自主的・積極的な学習態度を育成する。 ⑥しっかりしたタイムマネジメントと主体的に学ぶ姿勢を育て、効果的な学習活動を支援する。	
	③授業改善（AL型授業展開等）による生徒の理解度向上	⑦指導法の研究を各教科で行い、深い学びの場の提供に努める。 ⑧研究授業の開催、相互授業参観、先進校視察や校内研修会を通して、授業改善及び指導力向上を図る。 ⑨生徒による授業満足度3.0以上を目指す。	
	④豊かな人間性の涵養による心理的安心の向上	⑩基本的生活習慣の確立に努めるとともに、部活動や委員会活動への積極的な参加を促す。 ⑪いじめを許さない心や、他者を思いやる心の育成により、豊かな人間関係づくりを図る。 ⑫個別面談や教育相談を充実させ、生徒の悩みや問題の解決に向け支援する。	
	⑤探究活動・他校交流・大会参加等を通じて自己肯定感の向上	⑬探究活動を強く推進し、課題発見能力、課題解決能力の育成を図る。 ⑭自ら調べ、考え、発表する姿勢を育て、主体的、対話的な深い学びにつなげる。 ⑮世界に通用する人材育成ができるよう、コミュニケーション能力、英語による発信力強化を図る。 ⑯国内外の大会、模擬国連などに積極的に参加し、グローバルな視野の育成を図る。 ⑰国内外の有識者による講演会、様々な背景を持つ生徒との交流などを積極的に行い、生徒の自信育成につなげる。	
	⑥学校情報の積極的発信と保護者・同窓生・地域との連携	⑱学校の情報を積極的に発信するために学校ホームページや学校通信等を充実させ、本校の魅力を伝える機会を増やす。 ⑲地域とのコミュニケーションやふれあいの機会を大切に、小中学校や近隣の方との交流を図る。	
	⑦中学生と高校生の積極的交流の推進	⑳授業・部活動・探究学習などの内容を段階的に身に付けられるように、効果的な連携を工夫する。	

別紙様式 2 (高)

			②附属中において人格形成、課外活動、言語能力などに重みをおき、総合的な学びを図り、高校での学びの基礎とする。		
		⑧ICT 機器の活用などによる効果的授業の実現	②②ICT 機器の効果的な活用を通じて、生徒の学習理解を幅広くサポートする。 ②③授業改善を考える手立てとして、先進的な事例紹介等の機会を増やし、研修の充実を図る。		
		⑨働き方改革の推進による WLB 向上	②④学習指導等の質の向上を図りつつ、業務の効率化を進める取組を推進することで、職員の負担軽減、環境改善を図る。 ②⑤在校時間の自己管理や休暇が取得しやすい環境づくりを推進し、働き方の意識向上に努める。 ②⑥衛生委員会等で超過勤務・ストレス等を把握し、課題の改善・解決に向けて取り組む。		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
教務部	対話的で深い学びを可能にする授業を展開するための支援を充実させる。	授業時間の確保のため、授業補填率 100%を継続させ、日々の時間割を円滑に運営する。 ⑤			
		⑥ 学校行事等を効果的・計画的に実施することで、生徒が意欲的に授業に取り組む環境をつくる。 ⑤			
		⑥ 定期考査や実力考査、及び校内模試の問題検討会の実施を推進する。 ⑦			
		授業の相互参観を推進し、授業改善、指導力向上の研修機会を増やす。 ⑦⑧			
	新教育課程及び大学入試改革に適応した教育課程を編成する。	新教育課程を踏まえ、生徒の能動的な学習活動の促進に向け、研究を進める。 ⑤⑥⑦			
		新学習指導要領や大学入学共通テストに対応した教育課程を検討する。 ⑥⑦			
		医学コースや探究学習の推進、および単位制導入を踏まえた令和6年度教育課程を作成する。 ⑤ ⑥ ⑦			
	⑧				
		広報活動の充実を通し、教育活動の活性化を図る。	中学生に加え、小学生や地域社会に対しても本校をアピールする機会を推進する。 ⑧⑨		
	本校の教育活動の様子を、ホームページやマスメディアなどを通して積極的に公開する。 ⑧ ⑨				
	学習館の利用を促進する。	学習館の年間使用予定を調整し、その利用を効率的に行う。 ⑤⑥			
		学年や校務分掌と連携し、学習活動等に活用しやすい環境を整える。 ⑤⑥			
	生徒の実態を踏まえた人権教育の推進を図る。	人権感覚や人権意識を育み、人権擁護の意識を高める教育の実践を支援する。 ⑩⑪			
		教育活動全体を通して人権尊重の精神を養い、生徒の人権意識を育成するために必要な総合的資			

別紙様式 2 (高)

		質・能力を高めることを目的とした職員研修を企画、実行する。 ⑧⑨⑩⑪			
		H R 活動、生徒会活動、生徒が企画・運営する学校行事等における自主的な活動を支援する。 ⑩③			
	ICT 機器の効果的な活用を推進する。	生徒および職員への時間割変更連絡を適切に行うために IT 化を図る。また、同時に教務部の業務改善を行い、職員の負担軽減を図る。 ②③			
	働き方改革の推進	クラウドでデータを共同管理し、職員間の共通理解や連絡事項を共有する。 ②③			
渉外部		土曜講座や課外授業等の実施方法について、生徒の学びの質を落とさずに教職員の WLB を改善する手立てを検討する。 ④⑤			
	家庭、地域社会と学校の連携を深め、協力体制を確立する。	各学年後援会と学年との協力体制を強化し、充実した高校生を支える。 ⑨			
		PTA 行事への参加を呼びかけ、PTA 行事を活性化する。 ⑨			
	奨学金制度の活用	各種奨学金について生徒・保護者に知らせ活用の手助けをする。 ①③			
生徒指導部	自ら考え、自ら動く姿勢を育成する。	校則の在り方や SNS の適切な活用法などについて生徒自身で考え、基本的生活習慣を自律的に確立させると共に、いじめのない健全な学校生活を送ることができるよう支援する。 ⑩⑪			
		交通ルールを遵守し、適切な交通マナーを実践できるよう指導すると共に、保護者や地域の方とも連携し、適宜見守り活動を行い、交通事故のない安全通学環境を整える。 ⑨			
	生徒の実態をよく把握し、生徒の自発的な活動を支援する。	学年・部活動・委員会・分掌間の連携を密にし、生徒の実態把握に努める。 ⑥⑦			
		生徒の発想や創意を活かすべく、学校行事運営や部活動を支援する。 ②③			
		キャリアパスポートの作成及び積極的な活用を行う。 ④			
		円滑な課外活動が行えるよう、行事及び部活動に関する諸規定を見直す。 ⑩			
	附属中学校と連携した教育活動の充実を図る。	中・高職員が連携して、登下校時の交通指導を行う。 ⑨			
		中・高が一体となった行事運営や生徒会活動が行えるよう支援する。 ⑦			
教育相談室	教育相談体制を確立する。	教育相談室の広報に努めるとともに、生徒や保護者が相談しやすい環境や体制を整える。 ⑦⑧			
		各学年や各校務分掌、SC、SSW と連携し、生徒の悩みや問題の解決に向け支援する。 ③⑪⑫			
保健厚生部	安全で衛生的な生活環境を整備する。	清掃計画を作成し、生活環境が衛生的に保たれるよう分担区清掃を責任をもって実施する。 ③⑩			
		校内の環境を安全・清潔に保つために定期的に安全点検を行い安心して生活できる環境を整える。 ③			
		⑧ 避難訓練を実施し、防災力の向上に努める。 ⑩			
	生徒の健康管理を支援する。	検診機関等が行う活動の準備・実施・事後措置に対し、協力・指導する。 ③⑩			
		自他の生命尊重を基盤とした健全な倫理観を育み、将来の実りある自己実現に向け、性教育に関する保健指導を実施する。 ⑪⑫			
	学習指導を支援する。	効果的な個別指導を行うため、学年と共同で生徒の家庭学習実態を把握し担任を支援する。			

別紙様式 2 (高)

進路指導部		⑤⑥ ⑦			
		生徒の進路希望に即した授業や考査のレベルを維持するため、教科担当者が外部の研究会に積極的に参加するように促す。また教科内の作問などの検討を促す。 ⑦			
		②③			
	生徒が志高く、自らの進路希望を実現できるようにする。	キャリアパスポートの積極的な活用のために、将来の生き方や生活、進路や職業について考える学年行事の支援を行う。またHPで講演会等の様子を報告していく。 ①② ③④			
		生徒が自分の将来をデザインするための資料や図書の充実に努める。 ①②④			
		進路情報交換会を開き、指導法のヒントや課題の発見、およびその解決に努め、教職員集団として共通理解を持った進路指導ができるようにする。そのため、学年との連携を密にする。 ①⑥ ⑦			
	適切な進路情報の提供に努め、生徒が自らの将来をデザインできるようにする。	生徒が志望校を考える資料として、進学要覧・合格体験記を作成しする。進学要覧は担任が生徒面談の際に活用し、合格体験記は生徒に配布する。 ①②④			
		学年後援会総会、保護者面談の際に、学年に応じた適切な進路情報を提供する。 ①③			
		必要に応じて外部からの資料（大学の難易度・入試科目・受験にかかる費用等）を配付し、生徒と保護者が進路について共通の認識を持てるように支援する。 ①③			
図書視聴覚部	授業の展開に対応した資料を充実させる。	各教科を対象に購入希望図書の調査をし、蔵書の充実を図る。 ⑤⑥			
		蔵書の効率的利用のため、コンピュータによる蔵書管理のあり方を見直していく。 ⑥②②			
	読書・作品鑑賞等を通して教養を深め、豊かな人間性を養う。	生徒の教養や人間性を高めるにふさわしい資料を精選し、継続的に収集してゆく。 ③④④			
		別館の開設や情報発信の工夫により、休館中も生徒の読書意欲を維持する。 ③⑥④④			
		生徒の読書生活を高めるための企画等を工夫する。 ⑥④④			
	授業及び自主学習の場として、利便性・快適性を高める。	図書館・視聴覚室の美化に努め、利用マナーの遵守について指導する。 ⑥⑩⑥			
		課外授業及び視聴覚教材を用いた授業の場として視聴覚室を開放する。 ⑤⑥⑥			
		別館の開設・運営を通して、生徒の自主学習を支援する場を保持する。 ⑤⑥⑥			
	附属中との連携を図る。	中高のバランスに配慮した選書を行う。 ②②②①			
		情報発信や図書の配置・企画等において、中高の連携を強化する。 ②②②①			
ICT活用推進室	情報教育の環境を整備し、授業でのICT活用を進める。	事務室・教科・学年と連携し、ICT環境の整備に取り組む。 ②②			
		全学年での一人一台端末を使った授業の開始に合わせ、ICT活用を更に推進し、生徒の学習理解や学習法の改善を図る。 ⑤⑥⑦⑧⑨②②③			
	情報モラルに関する意識を	講演会などを通して、情報モラル教育を推進し、情報機器やSNS等の適切な使用についての生徒			

別紙様式 2 (高)

	高める	の意識向上を図る。⑩⑪⑫			
	情報セキュリティに関する意識を高める。	情報セキュリティやウイルス対策等に対する教職員や生徒の意識向上を図る。突発的に起きるトラブル等に対しても対応出来るような用意をしておく。⑭			
	業務の軽減を進める。	ワークフローの導入に合わせ、デジタル化を進め、業務の軽減を進める。⑭⑮			
探究学習推進室	課題探究活動を推進する。	課題探究活動を行うにあたり、大学教員の講義、留学生ワークショップ、海外大学との連携、県内外の他校との交流等を通じて、生徒の興味・探究心を喚起し自ら考えさせる態度を育成する。⑬⑭			
	人的ネットワークの構築を推進する。	起業教育プログラム、海外高校との交流、海外フィールドワーク等を通じて、世界に目を向け、将来活躍するために必要なネットワークを主体的に構築させる態度を育成する。⑯⑰			
	幅広い視野を養う活動を推進する。	文化講演会、企業・研究所訪問、OBOG ガイダンス、進路講演会等を通じ、自らの課題発見とその解決を支援し、幅広い視野を持った生徒を育成する。⑮⑯⑰			
	グローバル人材の育成を推進する。	学校行事や各種委員会活動等を通じ、自己を確立しつつ、他者を受容し、多様な価値観を持つ人々と共に思考し、協力・協働しながら課題を解決し、新たな価値を生み出しながらグローバル社会に貢献することが出来る生徒を育成する。⑭⑯⑰			
旧本館学習館統括室	自習場所として活用する。	進路指導部、各学年、特に第3学年と連携し、自習の場所として相応しい環境を整える。⑥			
	各種行事に活用する。	学校・学年行事、研修会や会議等による使用予定を把握調整し、学習館の利用を効率的に行う。⑥			
	旧本館の活用を図る。	旧本館活用委員会と連携し、学習・特別活動や学校行事等の利用について検討し環境を整える。 ⑥ ⑩			
		学校休業日における地域社会との交流等のための利用について、旧本館活用委員会と検討する。 ⑬ ⑱			
第1学年	基本的生活習慣と授業中心の学習スタイルを確立する。 自立、自走による自己実現を可能にする幅広い知識と教養を獲得する。 探究型学習を習慣化する。	挨拶、容儀、時間管理など日々の生活の中で、当たり前のことを高いレベルで行う、自立した、自らを律して、行動する力を養う。①⑩			
		授業を中心として、全ての教科・科目において生徒を主体的に参加させる授業を展開する。自ら取り組み考える姿勢を培うとともに、知見と視野を広げ、幅広く教養を身につけ、「志」を实践する礎とする。①②③⑬			
		自ら考え、試行錯誤しながら問題を解決する習慣を獲得し、質の高い自学を促す。 ⑤ ⑥ ⑬ ⑭			
	高い目標を設定し、自立し自律する姿勢を涵養する。 社会に貢献する人材としての基盤を育成する。	企業訪問やOB・OG ガイダンスなどを通じ、広く社会に目を向け、将来の目標を可能な限り高く設定ができるよう意識を喚起するとともに、自身の知識や経験を社会に還元する意識を醸成しながら、自立し自走して自分の進路を切り開く力を身につける。①②⑪⑫			
		ホームルーム活動や個別面談を通じて、自己認識および他者との相互交流をととした視野の拡張と、社会のリーダーとしての素養の育成を目指す。①②③⑩⑪			

別紙様式 2 (高)

	すべての学校での活動に積極的に参加し、コミュニケーション能力と多様性の受容および対応力を育成する。	委員会や部・同好会の活動に積極的に参加させ、多様性を受容し、思いやりの心を育み、集団内での強いリーダーシップを育成する。 ①③⑩⑪			
		生徒相互の教え合いを活発化させ、知の伝達のネットワーク化を目指す。特に、成績上位者には他者に教える意義をしっかりと伝え、情報発信者として機能させるとともに指導的な立場を経験することによる成長を期待する。 ③⑤⑥⑨⑫⑬⑭			
		探究学習を通じ、自ら考え、課題を設定し、問題解決を図ることによる自立と、その過程でのコミュニケーション能力の向上、言語化、プレゼンテーション能力の育成を図る。 ①②③⑬④			
第 2 学年	自立探求型学習の深化を図り、高い目標へ継続的に取り組む。	学年行事を通して、自分の進路適性を見つめ、高い目標設定ができるよう働きかける。 ③⑩⑪			
		授業中心主義、多科目主義を堅持し、平日 3 時間休日 5 時間以上の家庭学習を継続させる。 ① ② ⑤			
		⑥ 学習活動や行事において、生徒間のネットワークの活用を図る。 ③⑤⑩			
	諸行事や課外活動に積極的に参加し、人間性とリーダーとしての資質を育む。	部活動・各種委員会活動・三人行事に全力で取り組みさせ、リーダーシップを育成する。 ③⑪⑨			
		自ら考え、自ら行動を起こす自立した生徒を育てる。 ②⑥⑬			
		他者・集団の利益を考えさせ、生徒の責任感や客観性を育成する。 ③④			
	多様な価値観を積極的に取り入れ、自己の成長へとつなげる。	別クラス・団体に所属する生徒間の繋がりを作り、生徒間の交流の活性化を図る。 ③⑩⑪			
		担任面談や学年担当者との関わりを通して、目標への挑戦を啓発する。 ②③⑩			
		スマホや SNS に依存しない繋がりを促し、コミュニケーション能力を育てる。 ②③⑪⑫⑮			
	第 3 学年	高い目標を掲げ、その実現に向けて落ち着いた日常生活を送ると共に個が伸びる集団づくりを目指す。	面談を通して、自分の適性を見つめ、目標とする進路実現のために努力を継続する態度と意欲を涵養する。 ②⑥⑩⑫		
			集団生活での礼儀と社会的なモラルを意識させ、自らを律する能力を育てる。自分の資質や能力を社会に貢献する方法を探り、共同体における存在意義が感させる。 ③④⑥⑩⑨		
		部活動や委員会活動に主体的に取り組むと共に、学習との両立、そして受験勉強への切り替えを円滑にする。	部活動、一高祭といった学校行事に全力で取り組みさせ、一つのことを成し遂げたという達成感をもって人間の成長へと結びつける。 ⑪⑫		
			転換期に進学講演会、課外（東大研、医学研）を実施し、高い志をもって取り組む生徒を育てる。 ① ③ ⑥ ⑬		
			⑭		
		授業第一主義を貫き、目標とする進路実現ができるように支援する。	「授業は地元難関大レベル、課外は最難関大レベル」を徹底し、学校内の指導だけでも大学受験が完結できる学習環境を提供する。 ⑤⑦⑧⑨⑫⑬⑭		
			始業前や放課後の学習環境を整え、教室、学習館を学習の中心の場とするよう啓発する。⑤⑥⑦		
		部活動や学校行事を通して育まれた友人関係を礎に、互	授業、課外を通して、互いに教えあう場面が発生する学習指導を行う。 ⑤⑥⑦⑧⑨		
			課外（東大研、医学研、各種研究会）を通して、クラスの枠を越えた生徒交流を図り、互いに啓		

別紙様式 2 (高)

	いに教え、啓発し合う関係に発展させ、仲間と共に進路実現を目指す姿勢を育む。	発しあう関係を育む。特に、志望校を同じくする生徒同士の集団化を図り、過去問を中心に、互いの長所短所を補完し合う主体的で対話的な学習活動を授業外で築かせる。 ①③⑥			
国語	基礎学力の確かな定着を図る。	授業計画を生徒と教員で共有し、主体的な予習・復習の習慣をつける。 ⑤⑥⑨			
		小テストへの取り組み等を通して言葉の特徴やきまり及び語彙への関心を高める。 ⑤⑥			
	探究型の学習スタイルを目指し、自ら学ぶ力の育成を図る。	多様なテキストに触れ、情報の取り扱いに関する知識及び技能を高める。 ⑤⑥⑬⑭			
		幅広く古典に親しみ、伝統的な言語文化に対する理解を深め、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持つ。 ⑤⑥⑬⑭			
		読書および教科横断的な協同学習や表現活動を授業に取り入れることで、言語運用能力を総合的に伸ばす。 ⑦⑬⑭			
		生徒のニーズに応える特別講座および学力不振の生徒に対する補講等を実施し、幅広い学力層に対応した指導を行い、生徒ひとり一人の学力伸張を支援する。 ⑦⑨			
	授業デザイン・評価・指導方法を共有する。	中学校との系統性を考慮したうえで、考査や模擬試験等の分析を行い、分析結果をもとに授業デザインおよび指導法を改善、共有する。 ⑦⑧⑨⑬⑭			
		单元ごとに授業内容を共有と、考査問題の協議、検討を行い、生徒の学力伸張と的確な学力評価を实践する。 ⑧⑨			
		ICT 機器を活用し、学習者ひとり一人の学びを深める。 ⑤⑥⑭⑮			
地歴	世界史の学習を通して、国際社会における日本人のあり方を学び、社会に貢献できる生徒の育成を図る。	世界史の通史だけでなく、テーマ史的な観点からも歴史的事象を取り上げ、近現代世界に対する多角的で柔軟なとらえ方を身に付けさせる。 ⑤⑥⑭			
		世界各地の文化とその成り立ちを学ぶことにより、我々と異なる文化や考え方を理解・尊重する態度を育成する。 ③⑤⑥			
		世界史の基礎的な知識を身に付け、それをもとに自ら考える力を育成し、表現する力を養成する。 ⑤⑬ ⑭			
	我が国の歴史の展開を地理的条件や世界の歴史と関連付けて考察させるとともに歴史を追究する資質を養い、歴史的思考力を培う。	各時代の国際環境や地理的条件などと関連付け、世界の中の日本という視点で考察させる。 ⑤ ⑥ ⑨ ⑭			
		地域社会の歴史と文化を扱うことにより、郷土に対する関心を高め、愛する心を育てる。 ③ ⑤ ⑬ ⑭			
		基礎的な知識や史料を解説する力をもとに、論述することを通じて、歴史的な見方や考え方を身に付けさせる。 ⑤⑥⑭			

別紙様式 2 (高)

	現代世界で発生する種々の事象に対し、自ら考える姿勢を養うとともに地理的な見方・考え方の育成を図る。	系統的な学習を通して基本的な知識の定着を図り、地誌的な学習を通して興味・関心を持って具体的に現代世界を考察する態度を養う。 ①⑤⑥			
		授業進度の適切な時期を考慮して、調査や作業学習を体験することで地理的な技能を養う。 ⑤ ⑬			
		⑭ 3年次では大学入試に対応した論理的な思考力や表現力を育成する。 ⑤⑥⑬⑭			
	授業デザイン・評価・指導方法を改善する。	中学校との系統性を考慮したうえで、調査や模擬試験等の分析結果を活かして授業をデザインする。 ⑦⑧⑨⑭			
		ICT機器を活用し、学習者の学びを深める。 ⑭⑮			
公民	人間と社会の在り方についての見方・考え方の理解を深め、現代の諸課題を追究・解決する姿勢と能力を養う。	公共で必要とされる基礎的知識を身に付け、それをもとに諸問題に対して自ら考える態度を育成する。 ⑤⑥⑭			
		公共的な空間と人間的な関わり、個人の尊厳と自主・自立、人間と社会の多様性と共通性、人間としてのありかた・生き方についての理解と思索を深めさせる。 ③⑭			
	政治・経済・国際関係などを客観的に理解し、関心を持って考察する態度を育成する。	民主主義の本質に関する理解を深め、現代社会における政治・経済・国際関係などについて理解させ、基礎的な知識を身に付けさせるとともに、それらについて主体的にとらえ、考えさせる。 ⑤ ⑥ ⑭			
	授業デザイン・評価・指導方法を改善する。	中学校との系統性を考慮したうえで、調査や模擬試験等の分析結果を活かして授業をデザインする。 ⑦⑧⑨⑭			
		ICT機器を活用し、学習者の学びを深める。 ⑭⑮			
数学	生徒の発達段階に応じた質の高い授業を展開するよう授業改善する。	綿密な授業計画表を作成し、進度計画表を生徒に配布することで生徒の学習計画を促すとともに、それぞれの学年の方策に従って基礎学力の定着を図る。 ⑤ ⑥⑦			
		授業重視を徹底させる。日常の自己学習を徹底させる。 ⑤⑥			
		授業中心の学習計画を立てさせ、「予習→授業→復習」の学習習慣を確立させる。 ⑤⑥⑦			
		科目担当者の連携を密にし、授業の進度や定着度合いの確認・分析を行い、学習指導に生かす。 ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨			
		基本事項の理解を徹底させると共に、試験前等の問題演習を十分に行う。 ⑤⑥			
		授業内容や生徒の習熟度に応じた教材・問題等を協議検討して、その結果を学習指導に生かす。 ⑤ ⑥ ⑦			
		3学年の生徒には、基本事項を整理し、発展的な応用力の養成と定着に努め、難関大学に合格で			

別紙様式 2 (高)

理科		きるための思考力を養う。⑥⑪ 進学目標別の対策を研究するためのガイダンスや課外を実施する。⑥⑪			
	自然に対する関心や探究心を高め、科学的に探究する能力と態度を育てる。	授業展開の中で、生徒の興味・探究心を喚起する実験・観察教材の研究と工夫に努め、考察への展開を工夫改善すると共に発展的な内容や話題について提供する。⑤⑥⑦⑧ 単元毎の観察・実験を行い、観察・実験に積極的に取り組ませ、現象を見る目や探究心を養う。また、その内容についてのレポートの作成や発表を通して、学力の定着を図るとともに科学的な思考力を養う。外部講師による「科学実験講座」を実施し、発展的内容に触れさせることで科学的探求心を育てる。①②⑤⑬			
	自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な自然観を育成する。	授業で履修する事柄が自然や生活の中の仕組みにどのように関わっているかを取り上げることにより、科学を学ぶ楽しみや科学的な姿勢を育成し、科学的現象に対する学習意欲を高める。⑤ ⑨			
	基礎学力を充実させ、3年においては、特に生徒の進路を考慮して応用力の養成を図る。	授業内容や生徒の習熟度に応じた教材・問題等を協議検討して、その結果を学習指導に生かす。演習問題等を精選し、授業や添削指導などを通して、基礎学力を確実に定着させる指導を行う。⑦ ⑧ 3学年の生徒には、基礎学力定着の確認を行うとともに、発展的な応用力の養成と定着に努める。良質な演習問題や試験問題の作問に努め、高いレベルの学力や思考力を育成し、最難関大学の受験へ対応できるようにする。⑦⑧⑨			
	指導法や評価を研究し、授業改善を図る。	ICT の利活用や評価の改善、指導法や授業展開の研究をし、生徒の科学的に探究する能力や科学的な思考力・判断力・表現力を伸長できる授業をデザインする。⑦⑧②③			
保健体育	運動や学習を通して、協調性を高め、仲間との関わりの中でそれぞれの力を伸ばす意識を持たせるように指導する。	集団種目を多く取り入れることにより、仲間と協力・連携して活動する態度や、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとする態度を育成する。①③⑤⑥⑪ 保健において、自分の身体への理解を深めて命の大切さに気づき、自己愛や他者への思いやりの心が育つように指導する。①③⑦⑩⑪			
	運動の実践を通して、体力の向上、困難なことにも立ち向かう態度や能力を育成する。	苦手なことにも取り組みやすいように指導方法を工夫しながら、主体的に学ぶ態度や思考判断表現の評価につなげるなど、生徒の内面が成長できるような働きかけをする。⑤⑥⑦ 個人スキル向上のために、ドリルや発問の仕方を工夫し、発展したゲームが展開できる力をつける指導を行う。⑤⑥⑦⑧⑨			
	運動・スポーツ活動における健康・安全指導を充実させる。	熱中症対策、用具の使用方法、準備運動等の心身にケアなど、毎回の注意喚起と観察を徹底する。⑤⑥ ⑩ 健康、安全に関する知識と自己管理能力を育成する。⑤⑥⑩			

別紙様式 2 (高)

	よりよい授業を行うために教科内でスライドの共有や、チームティーチングを行う。	保健の授業で使用するスライドを共有し、改善を図る。 ⑤⑥⑦⑧⑨			
		体育の授業では教員間で意見を出し合いながら計画的に授業を行う。 ⑤⑥⑦⑧⑨			
芸術	幅広い活動を通して、各教科における見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を育成する授業を展開する。	社会情勢や生徒の実態に沿った課題選択を行い、一人一人の個性や感性を尊重した個別指導を充実させる。 ①⑤⑥⑦⑨⑫			
		新学習指導要領に則り、6年間の中高一貫教育を見通しながら、生徒の発達段階を考慮した教材や授業内容及び指導方法を創意工夫改善する。 ⑤⑥⑦⑧⑮ ㉟㊱			
	生涯にわたり芸術を愛好する心情と豊かな情操を育む。	生徒自らが工夫した表現活動や相互鑑賞などにより豊かな心情を育て、芸術の諸能力の向上を図る。 ⑤⑥⑨⑪			
		相互鑑賞等をととして、他者の考えや表現に共感する鑑賞の能力を高めるとともに、自己表現の意図を他者に分かりやすく伝える発表の能力やコミュニケーション能力を向上させる。 ④ ⑤ ⑥ ⑨ ⑪			
家庭	変化の大きい社会を生き抜くために必要な知識と技術を習得する授業を創意工夫する。	各分野の授業において、生涯を見通して生活を設計し、創造する力を引き出す授業や実習を研究し、発展的な知識・内容についても提供する。 ⑤⑥⑦⑧⑨⑫			
		授業において学習した知識や技術を活かし、家庭生活における課題を主体的に解決する態度や適切に判断し、創造・工夫する力を育成する。 ⑤⑥⑦⑧⑨			
	家庭や地域の生活課題を主体的に解決するために必要な知識と技術を習得し、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。	各分野の授業において、生涯を見通して生活を設計し、創造する力を引き出す授業や実習を研究し、発展的な知識・内容についても提供する。 ⑤⑥⑦⑧⑨⑫			
		技術の習得については、生徒一人一人の能力にあった個別指導を充実させる。 ⑥㉟㊱			
情報	課題設定や課題解決のための思考力を養う。	課題探究活動と連携し、情報技術の有用性を理解させながら、実際に課題設定と解決方法を探る活動を通し、必要とされる思考力を養う。 ⑤⑥⑭			
		アルゴリズムを表現し、プログラミングの基礎を学習することを通して、論理的な思考力を育成する。 ⑤ ⑥			
	情報社会において適切に活用できる ICT 技術を養う。	ワープロ、表計算ソフト、パワーポイントを活用した課題研究と各種発表会を通して、情報の伝達力を育成する。 ⑤⑥			
		情報やメディアの特性を理解し、情報セキュリティや情報モラルの重要性をより実感出来るような題材を適宜選択し、生徒の素養を育成する。 ⑥⑦			
	情報技術を用いた効果的なコミュニケーション能力を養う。	オンラインでのプレゼンテーションや質疑応答を通して、効果的なコミュニケーションを図るための情報技術、情報デザインを実際に活用し、自らのコミュニケーション能力向上を目指す態度を養う。 ⑤⑭			
	積極的に授業改善を行う。	生徒のスキル向上を可能にする授業改善を行う。 ⑦⑧⑨			
	英語科全体の目標	教材研究を深めて、生徒の知的好奇心を刺激し、充実感のある、分かりやすい授業を展開する。 ⑤⑥⑧			

別紙様式 2 (高)

英語	分かりやすい授業へ授業改善し、実践的コミュニケーション能力を養う	英語を通し、将来国際社会で活躍する日本人として必要となる、国内外の文化・社会の諸側面についての理解を深められるように題材の扱い方を工夫する。 ⑤⑥			
		読む、聞く、書く、話すの4技能をバランスよく伸長できるような授業を展開する。 ⑤⑥⑦⑧			
	第1学年の目標 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、英語の確かな基礎力を養う。	授業を中心に予習復習の徹底を図り、自立した学習の援助をする。 ⑤⑥			
		語彙力を向上させるテストを学年を通して実施する。 ⑤⑥			
		英語に親しめるサイドリーダーを選択・活用して、読解力の基礎の育成を図る。 ⑤⑥⑦			
		辞書指導の充実等によって、自立した学習力の育成を図る。 ⑤⑥			
		授業内にペアワークを頻繁に取り入れ、実践的コミュニケーション能力の向上を図る。 ⑤⑥			
	第2学年の目標 第1学年で培った英語の基礎力をさらに伸長させ、確かな英語力を養う。	第1学年で培った生徒の英語力を踏まえ、個々の生徒の英語運用能力を伸ばす授業を展開する。 ⑥⑦⑧			
		表現力を高めるための文法・語法確認小テストを継続実施する。 ⑥			
		文法的に正確であり、論理的な英文が書ける力を養う授業を展開する。 ⑤			
		英語による自己表現を促すことで、世界的な視野を持つ人材の育成を図る。 ⑤⑥			
		知的好奇心を刺激するようなサイドリーダーを選択・活用して、読解力の向上を図る。 ⑤⑥⑦			
	第3学年の目標 生徒の進路希望実現のために、難関大学入試に対応できる確かな実践力を養う。	第1、2学年で培った英語力を踏まえ、ゆるぎない英語力を完成させる。 ⑤⑥⑦			
		大学入試問題を研究し、生徒の進路希望に即した考査を実施する。 ⑤⑥⑦⑧			
		国公立大学個別学力試験に対応できるような英文要約や英作文等の個別指導を充実させる。 ⑤⑦⑧			

※ 評価規準：A：目標が十分達成された B：ある程度の成果が見られた C：取り組んだ D：取り組んだが課題を残した E：取り組まなかった